

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この話の山は「見＝あらはる」の読み、再読文字「未」、そして荊軻の決死の覚悟です。

あらすじ＝秦の軍が国境まで迫った燕の太子丹は、刺客の荊軻に秦王暗殺を託す。出発の日、人々は喪服にあたる白い衣冠で易水のほとりまで見送り、荊軻は「風蕭蕭として易水寒し、壮士一たび去りて復た還らず」と歌って旅立つ。秦の宮殿では、秦王が献上された地図を広げていくと、中に隠してあった短剣が現れ、荊軻は秦王の袖をつかんで刺そうとするが、あと一歩のところまで袖が切れて逃げられてしまう。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

太子（たいし）及（およ）び賓客（ひんかく）の其（その）事（こと）を知る者（もの）、皆（みな）^①白衣冠（はくいかん）して^②以（もつ）て之（これ）を送る。（中略）高漸離（こうぜんり）筑（ちく）を撃（う）ち、荊軻（けいか）^③和（わ）して歌（うた）ふ。

^④風蕭蕭（かぜしょうしょう）として易水（えきすい）寒（さむ）し、^⑤壮士（そうし）^⑥一（ひと）たび去（さ）りて^⑦復（また）^⑧（ま）た還（かへ）らず。

（中略）秦王（しんおう）軻（か）に^⑨図（づ）を取（と）れと謂（い）ふ。軻（か）^⑩図（づ）を取（と）りて^⑪之（これ）を奉（たてまつ）る。^⑫図（づ）を^⑬発（ひらく）。^⑭図（づ）^⑮窮（きは）まりて^⑯匕首（ひしう）見（み）はる。

^⑰因（よ）りて左手（ひだりて）に秦王（しんおう）の袖（そで）を把（と）り、右手（みぎて）に^⑱匕首（ひしう）持（も）ちて^⑲之（これ）を搥（さ）さん^⑳とす。^㉑未（いま）だ身（み）に至（いた）らざるに、秦王（しんおう）^㉒驚（おどろ）き、自（みづ）か^㉓ら引（ひ）きて起（た）ち、袖（そで）絶（た）つ。

語注 太子＝燕（えん）の国の世継ぎ。賓客＝客分としてかえられた人。白衣冠＝白衣と冠。喪（も）の装い。高漸離＝荊軻の親友。筑＝棒で弦を打ち鳴らす弦楽器。蕭蕭＝風がものさびしく吹くさま。易水＝燕の国を流れる川。ここで荊軻を見送った。壮士＝勇ましく意気さかな男。ここでは荊軻自身。秦王＝秦の王、名は政（せい）。図＝燕の督亢（とくこう）の地図。秦への献上品として持参した。匕首＝短剣・あいくち。毒が塗ってあった。搥（さ）す＝突き刺す。※一つめの（中略）＝一行が易水のほとりまで来て、旅の無事を祈る儀式をすませる場面。※二つめの（中略）＝荊軻が力強い調子（羽声）で歌い直して車に乗り、振り返らずに出発する。秦に着いた荊軻は、樊於期（はんおき）の首と督亢の地図を献上する使者として宮殿に上り、副使の秦舞陽（しんぶよう）が恐怖で顔色を変えたのを笑ってとりつくる。

A 語句の意味と読み(1～7)

- (1) ①「白衣冠(はくいかん)して」の意味を書け。
- (2) ④「風蕭蕭(かぜしょうしょう)として」の「蕭蕭」の意味を書け。
- (3) ⑤「壮士(そうし)」の意味と、ここでは誰を指すかを書け。
- (4) ⑪「窮(きは)まりて」の意味を書け。
- (5) ⑫「匕首見はる」の「匕首」の読みと意味を書け。
- (6) ⑫「匕首見はる」の「見」の読みと意味を書け。
- (7) ⑬「因(よ)りて」のここでの意味を書け。

B 句法(8～12)

- (8) ②「以て之を送る」の「以て」の働きを説明せよ。
- (9) ⑦「復(また)た還(かへ)らず」の「復たらず」の意味を書け。
- (10) ⑧「図を取れと謂ふ」は、誰が誰に、何と言った言葉か。「取れ」が命令の言い方であることにもふれて書け。
- (11) ⑭「之(これ)を搤(さ)さんとす」の「んとす」の意味・用法を書け。
- (12) ⑮「未(いま)だ身(み)に至(いた)らざるに」の「未」は何と呼ばれる字か。読み方と意味もあわせて書け。

C 主語・指す内容 (13～17)

(13) ②「之(これ)を送る」の「之」は誰を指すか。

(14) ⑨「之(これ)を奉(たてまつ)る」の「之」は何を指すか。

(15) ⑩「図(づ)を発(ひら)く」の主語は誰か。

(16) ⑬「因(よ)りて」は、直前のどの傍線の内容を受けて「そこで」と言っているのか。傍線の番号で答えよ。

(17) ⑭「之(これ)を堪(き)さんとす」の「之」は誰を指すか。また、この動作をしたのは誰か。

D 口語訳 (18～21)

(18) ①②を含む「皆白衣冠して以て之を送る」を口語訳せよ。

(19) ③「和(わ)して歌(うた)ふ」を含む「高漸離筑を撃ち、荊軻和して歌ふ」を口語訳せよ。

(20) ④⑤⑥⑦「風蕭蕭として易水寒し、壮士一たび去りて復た還らず」を口語訳せよ。

(21) ⑪⑫を含む「図窮まりて匕首見はる」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ① 「白衣冠（はくいかん）して」とあるが、人々がこの装いで見送ったのはなぜか。三十五字以内で書け。

(23) ⑦ 「復（ま）た還（かへ）らず」には、荊軻のどのような決意が表れているか。二十五字以内で書け。

(24) ⑧ から⑫までの展開から、荊軻がどのような方法で秦王に近づこうとしたかを説明せよ。

(25) ⑮ 「未（いま）だ身（み）に至（いた）らざるに」の一句は、この場面をどのように印象づけているか。説明せよ。

F 文学史・故事 (26～28)

(26) この話の出典の書名・作者・体裁と、収められている列伝の名を書け。

(27) ⑪⑫ 「図窮まりて匕首見はる」からできた四字の故事成語と、その意味を書け。

(28) 荊軻に秦王暗殺を託した人物は誰か。また、その相手である秦王政はのちに何と呼ばれたか。

【テスト直前チェック】この三つ ①「見」は「あらはる」。「図窮まりて匕首見はる」の「見」を「みる」と読むと即アウト。読みと意味の両方を書けるようにしておく。 ②「未だ～ず」は再読文字。「いまだ身に至らず」＝「まだ（体に）届かない」。「未」を二度読む形をそのまま覚える。 ③白衣冠＝喪の装い、復た還らず＝死の覚悟。記述問題の答えは、この二つに集まります。